

2. 青森県 (Aomori Pref.)

作成者: 工藤 忠<sup>1)</sup> ; 協力者: 室谷洋司・田中敬

作成日付: 2002年12月

今回 ランク	判定 方法	前回 ランク	種 名	現在も安定して発生している 産地 (市町村)	現在減少傾向にある産地 (市町村)	絶滅したと考えられる産地 (市町村)	衰退の経過	減少要因	備考(対策・文献など)
EX	ア	E	ヤマキチョウ	なし	なし	県東南部(田子町小国牧場、八戸市白山・番屋、階上町道仏、五戸町八幡、倉石村ブドウ、十和田市伝法寺など)	1960年代までに県東南部の6市町村から合計十数頭が記録されたが、1970年代以降は記録されていない	里山環境の悪化と、それに伴う食樹クロツバラの激減	記録が途絶えて約30年になるためEXと判断した
EX	ア	E	クロシジミ	なし	なし	県東南部(田子町不老倉峠下、八戸市番屋、新郷村長崎、三戸町新井田・猿辺、名久井岳など)	本県では1963年に三戸郡田子町不老倉峠下で得られた3 が初記録。その後、県東南部の数箇所産地が見つかったが、1967年以降は記録がない	発見から数年足らずで記録が途絶え、以来35年が経過。北限地域としてもと稀だったところへ、里山環境の悪化が追い打ちをかけたものと思われる	記録が途絶えて35年になるためEXと判断した
EX	ア	EX	オオルリシジミ	なし	なし	津軽地方(青森市野木和・三内・浪館山・豆坂高原・田茂木野、弘前市笹森山・鬼沢・弥生・貝沢・大石、鶴田町廻壇、平賀町軍馬平等)	1950年代までは各地で安定した個体数がみられ、産地によっては多産した。1960年代後半から激減し、1979年に弘前市大石で観察された産卵中の1 を最後に姿を消した	農耕用牛馬のための採草が不要となって、草原環境が荒廃。耕地化や空港・ゴルフ場建設などによる生息環境の消失。スピ・ドスプレ・ヤ・の普及による薬剤散布の激化	記録が途絶えて23年。Celastrina15号(工藤,1985)に最後の観察例が述べられている
EN	オ,ソ	E	オオウラギンヒョウモン				従来から多いものではなかったが、ときとして大発生した事例が報告されている。1960年代後半から急減し、1985年に三戸郡田子町電ヶ森で得られた1 以降は記録がない	オオルリシジミに準じると考えられる	記録が途絶えて17年。すでに絶滅状態と見られることもできるが、EXとした上記3種よりは分布が広く、十分な生存調査がなされたとは考えにくい。このため今回はENにとどめることにした。Celastrina26号(一戸清志,1991)に1985年の採集状況が述べられている
EN	オ,ソ	E	チャマダラセセリ		県東南部の一部地域に細々と生存	津軽地方における既知産地のほとんど	従来から多いものではなかったが、1960年代までは安定した発生が確認されていた。1970年代に入って急減し、1980年代以降はごくわずかの個体が県東南部の一部から得られているにすぎない	オオルリシジミに準じると考えられる	
EN	ソ	V	ホシチャバネセセリ				本県では太平洋側に偏った分布をしており、特に県東南部に産地が多かった。1970年代から減少傾向が認められ、1980年代以降は激減	里山環境の悪化と、それに伴う食草オオアブラスキの激減	
VU	タ,テ	R	ツマジロウラジャノメ	白神山地周辺(深浦町・岩崎村)	県東南部(五戸町・倉石村・新郷村・南部町・田子町・八戸市)、八甲田山西部(青森市)、西十和田山地(黒石市・平賀町)		県東南部や八甲田山西部では1970年代以降記録がなく、西十和田山地は1980年代から激減	湿潤な産地植生を好むため、林道整備による産地の乾燥化によって激減。コンクリート吹付や種子吹付による産地植生の減少が追い打ちをかけている	
NT	チ	R	ヒメギフチョウ	青森市東部	西十和田山地(黒石市・平賀町)		1980年代まではミズナラ中心の二次林で安定した発生が見られ、植林後もないスギ植林地に多産することもあった。西十和田山地では1990年代の前半から減少傾向が認められ、1990年代後半には深刻なほどに激減	開発による二次林環境の悪化。植林されたスギの伸長による環境の変化	一部の産地が安定しているためNTにとどめたが、県内最大の生息域というべき西十和田山地はENレベルにまで激減している
NT	チ	R	ヒメシロチョウ	下北半島各地	津軽平野一帯		1980年代までは県内各地の草原に多産していたが、1990年代から津軽地方で減少		
NT	チ,ト		キタアカシジミ	津軽半島屏風山地帯(車力村・木造町)	岩木山東部(弘前市)青森空港周辺(青森市)		1980年代までは各地のカシワ林に多産していたが、1990年代から一部の産地で激減	岩木山東部は宅地化や耕地化によるカシワ林の伐採、青森空港周辺は空港拡張によるカシワ林の伐採	
NT	チ	R	ウラナミアカシジミ		五所川原市、弘前市		1980年代までは各地の里山に多産していたが、1990年代に入って激減	里山環境の悪化(食樹であるコナラの高木化、生息林の市民公園化)	
NT	チ,ト	R	ゴマシジミ	下北半島各地、岩木山南部	相内(市浦村)、長平(鯉ヶ沢町)、竜飛(三厩村)	軍馬平(平賀町)、大森(弘前市)	軍馬平や大森は1990年代で記録が途絶え、相内や長平も1990年代後半から激減。竜飛の場合、岬周辺や海岸部では健在だが、風力発電のための巨大風車がある尾根筋の生息地は1990年代後半から減少	軍馬平はゴルフ場、大森は耕地化による生息地の消失によって絶滅。相内は放牧地化、長平はレジャー・施設による生息地の狭小化で激減。風力発電のための巨大風車が多数設置された竜飛の尾根筋は、微気候の変化による植生変化によって減少	竜飛の風力発電は環境を破壊しないことが売り物だった。確かに巨大風車が新設された当初は環境が保全されたように見えたが、設置から十数年の間に風車がある尾根筋の植生が少しずつ変化し、産卵植物であるナガバノシロワレモコウ群落そのものが減退した
NT	チ,ト		オオゴマシジミ		白神山地西部(岩崎村)		従来から個体数は少なかったが、1993年に白神山地が世界遺産に登録され、同山地を横断する弘西林道が観光向けの白神ラインとして整備されることによって激減	林道の観光地化による生息斜面の破壊	
NT	サ,チ,ト		カバイロシジミ	竜飛岬周辺(三厩村)、高野崎周辺(今別町)、下北半島西部(大間町・佐井村)	小泊海岸周辺(小泊村)		小泊村の海岸斜面では1980年代まで安定した発生がみられたが、観光道路(竜泊ライン)の整備による発生地の狭小化が1990年代以降顕著になった	観光道路の整備による発生地の植生変化(ヒロハクサフジ群落がスキ原へと推移)。コンクリート吹付や種子吹付による海岸斜面の減少	
NT	チ,ト		ヒメシジミ	下北半島各地	岩木山周辺(岩木町・鯉ヶ沢町)、階上岳周辺(階上町)		下北半島以外では従来から局所的で個体数も少なかったが、1980年代までは比較的安定した発生が認められていた。1990年代に入り、岩木山や階上岳で激減	岩木山の発生地はゴルフ場(鯉ヶ沢町)や観光公園化(岩木町)。階上岳は発生地の放牧地化ならびに観光開発	
NT	チ		ギンイチモンジセセリ		岩木山東部(弘前市)		1970年代まではオオルリシジミ生存調査の際に群舞するほど多くの個体数が見られた。1980年代から減少傾向が認められるようになり、1990年代には激減	オオルリシジミと同所的でありながら、オオルリシジミより20年ほど遅れて減少したところをみると、減少要因は微妙に異なるのかもしれない	
NT	チ		オオチャバネセセリ				1980年代までは県内全域で普通にみられたが、1990年代に入って激減	不明	

1) 〒036-8062 青森県弘前市青山4-13-1